

「子どもの健康・生活実態調査」(足立区)の概要

【調査対象】学年が上がるにつれてどのようなように変化していくかを追跡し、検証する

年度	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)
対象者 その1 (2008年生れ)	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
対象者 その2		小4、小6、 中2(一部)		小6、中2 (一部)		中2 (一部)			
対象者 その3			小1 (2010年 生まれ)		小1 (2012年 生まれ)		小1 (2014年 生まれ)		小1 (2016年 生まれ)

同じ集団を追跡することで、継続的変化及び因果関係を調べる

他年代の実態把握及び対象者その1との比較

同じ年代を継続的に見て、政策(妊娠期支援)を評価する

【調査時期】平成28年10月 ※H27年度は平成27年11月本格実施

【実施方法】無記名アンケート方式 区が学校を通じて配付・回収

国立成育医療研究センター研究所と東京医科歯科大学が集計・分析

【回答状況】小2 4,358名 (有効回答率81.4%) ※小1 4,291名 (有効回答率80.1%)

小4 534名 (同86.7%) 小6 530名 (同85.1%) 中2 588名 (同77.9%)

※小1・小2は保護者のみ、小4・小6・中2は保護者と子どもそれぞれ回答 ▲ 足立区



第2回 子どもの健康・生活実態調査

平成28年度 報告書【概要版】

足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのために「子どもの健康・生活実態調査」を実施し、子どもの健康と生活の実態把握を進めています。

この度、平成28年度に実施しました第2回調査の主な結果の概要がまとまりましたので、報告いたします。本調査にご協力いただきましてありがとうございました。本調査結果を踏まえて、子どもたちの未来につながる施策を推進してまいります。

今後とも足立区政ならびに教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

足立区長 近藤 やよい
 足立区教育委員会教育長 定野 司

調査の概要

調査対象：【昨年度から継続実施】区立小学校に在籍する2年生（全員）

【今回から新規実施】区立小学校に在籍する4年生（一部）、6年生（一部）、
 区立中学校に在籍する2年生（一部）

小2は保護者のみ回答し、それ以外は保護者と子どもがそれぞれ回答。

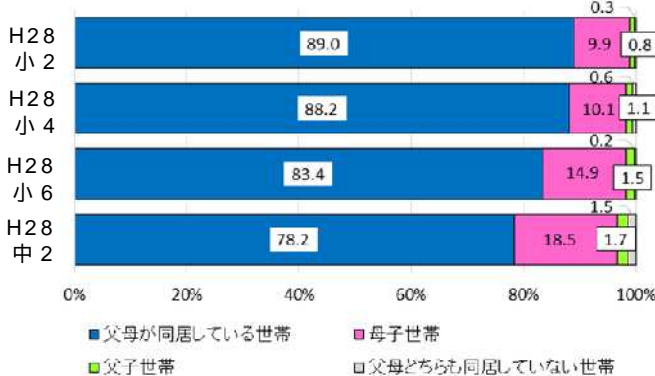
	小2	小4	小6	中2	合計
調査票配布数	5,351	616	623	755	7,345
集計・分析対象数 (有効回答率)	4,358 (81.4%)	534 (86.7%)	530 (85.1%)	588 (77.9%)	6,010 (81.8%)

調査時期：平成28年10月 ◇調査校数：小学校69校（一部実施学年は9校） 中学校7校
 実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票や回答票の配付・回収を行い、
 国立成育医療研究センター研究所と東京医科歯科大学が結果の集計・分析を行いました。
 （一部、学校身体測定・歯科健診の結果を分析に用いています）

世帯の構成・経済状況について

父母が同居している世帯は小2で89%、小4約88%、小6約83%、中2約78%と学年が上がるごとに減少し、母子、父子世帯が増えています。

【世帯構成】 回答者 いずれも保護者



世帯年収300万円未満（下グラフの ）は、小2約11%、中2約15%と増えています。

【世帯年収】 回答者 いずれも保護者



調査項目は中面をご覧ください

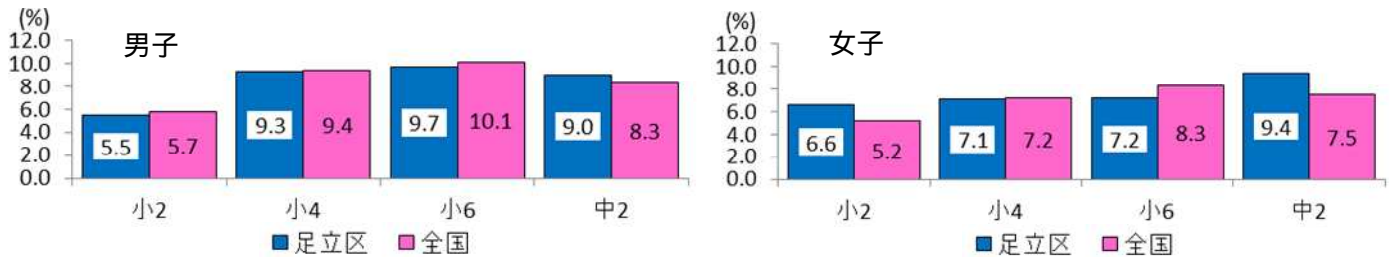
子どもの健康・生活の状況（調査項目の一部抜粋）

区立小学校2・4・6年生と区立中学校2年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。
ここでは、代表的な項目についてのみ記載しています。

下記グラフの数字は、パーセンテージです。

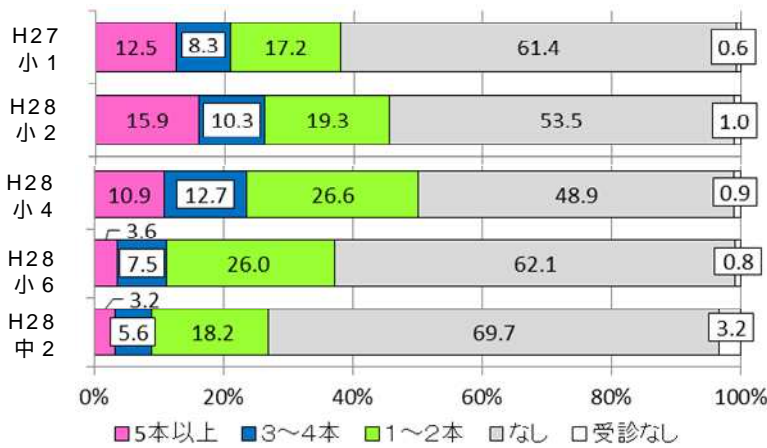
子どもの健康について -肥満、むし歯-

【肥満傾向】 足立区 学校身体測定より



肥満傾向の子どもの割合は、男子の中2、女子の小2、中2で全国平均よりやや高くなっています。

【むし歯の本数】 足立区 学校歯科健診より



歯科健診の結果では、昨年の小1でむし歯が1本でもある子どもは、38%でした。今回の調査では小2 約46%、小4 約50%です。その後、永久歯に生え変わるため減少し、小6 約37%、中2で27%の生徒にむし歯が1本以上ありました。

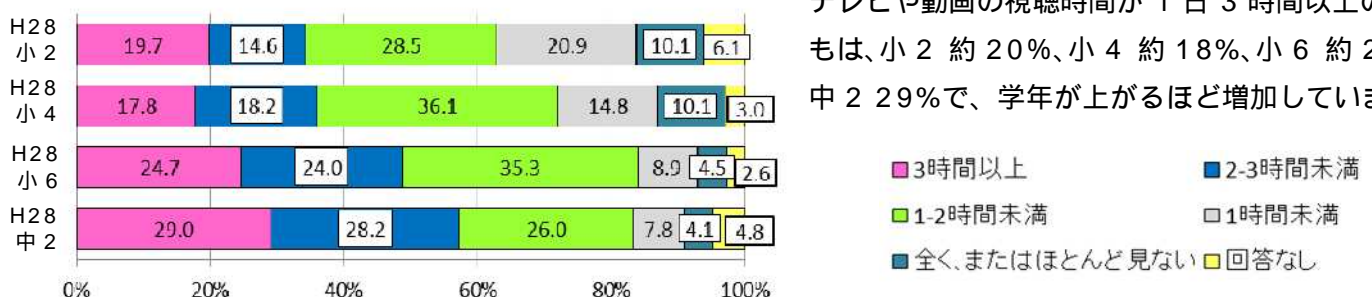
生活習慣について -運動、テレビ-

【運動習慣（学校での体育を除く）】 回答者 小2=保護者 / 小4~中2=子



1週間でほとんど・全く運動しない子どもは、小2 約17%、小4 約16%、小6 約23%、中2 約31%と学年が上がるほど増加しています。

【テレビや動画の視聴時間】 回答者 いずれも子

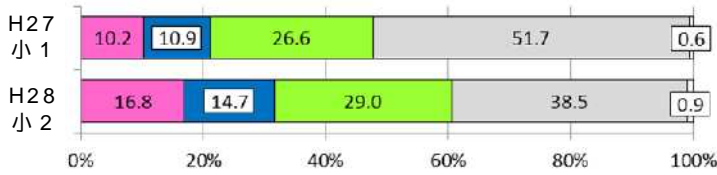


テレビや動画の視聴時間が1日3時間以上の子どもは、小2 約20%、小4 約18%、小6 約25%、中2 29%で、学年が上がるほど増加しています。

子どもの健康・生活の状況 (調査項目の一部抜粋)

生活習慣について -留守番、読書習慣-

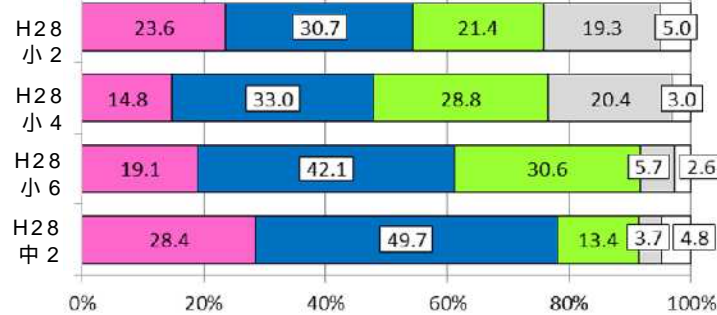
【留守番の頻度】 回答者 いずれも保護者



平日の放課後、子どもだけで週1回以上留守番をしている世帯は、昨年小1で約10%でした。今回の調査では、小2約17%です。

■ 週に1回以上 ■ 月に1~3回
■ 年に1~11回 ■ 留守番をしたことはない
□ 回答なし

【読書習慣】 回答者 いずれも子



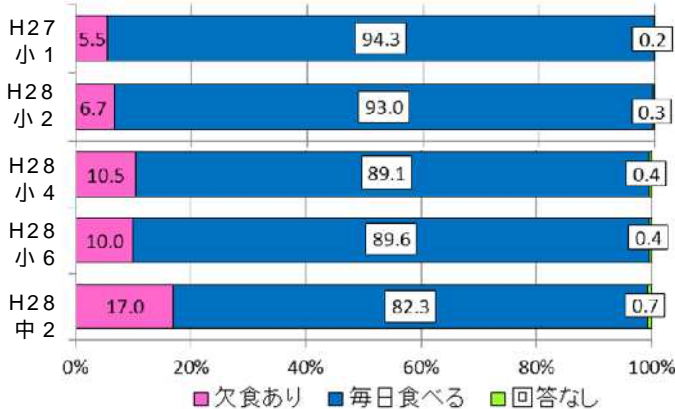
最近1か月で1冊も本を読んでいない子どもは、小2約24%、小4約15%、小6約19%、中2約28%です。

■ ほとんど読まない ■ 1~3冊程度 ■ 4~15冊
■ 16冊以上 □ 回答なし

食生活について -朝食、夕食、食べる順番、家庭での食事づくり-

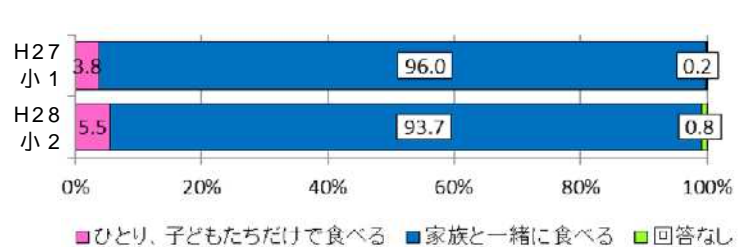
朝食を毎日食べる習慣のない子どもは、昨年小1で約6%でした。今回の調査では、小2約7%、小4約11%、小610%、中217%と学年が上がるごとに増加しています。

【朝食習慣】 回答者 小1・2=保護者 / 小4~中2=子



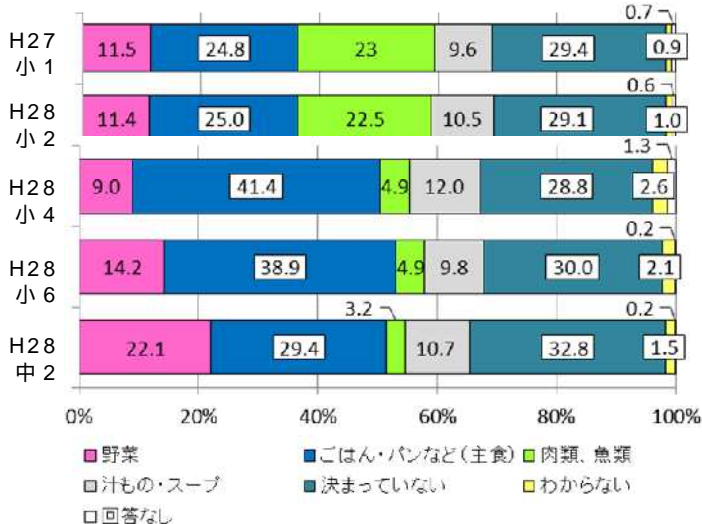
夕食をひとり、または子どもたちだけで食べる世帯は、昨年小1で約4%でした。今回の小2は約6%でした。

【夕食の状況】 回答者 いずれも保護者



野菜から食べている子どもは、昨年の小1で約12%でした。今回の調査では、小2約11%、小4約9%、小6約14%、中2約22%です。

【食材の食べる順番】 回答者 小1・2=保護者 / 小4~中2=子



子どもの食事(目玉焼き程度を含む)を毎日作っていない世帯は、昨年の小1で約17%でした。今回の調査では、小2約18%、小4約11%、小6約14%、中2約16%です。

【家庭での食事づくり】 回答者 いずれも保護者

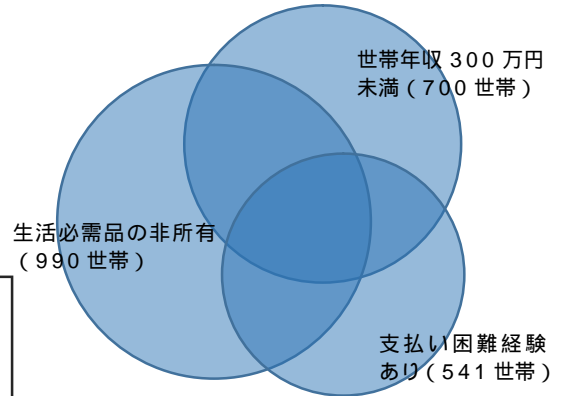


子どもの健康・生活と生活困難の関連

本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、子どもがおかれた家庭環境全体で把握すべきであると考え、次のいずれか一つでも該当する場合を「生活困難」世帯と定義し、子どもの健康・生活に生活困難がどの程度関連があるかを調べました。

生活困難とは

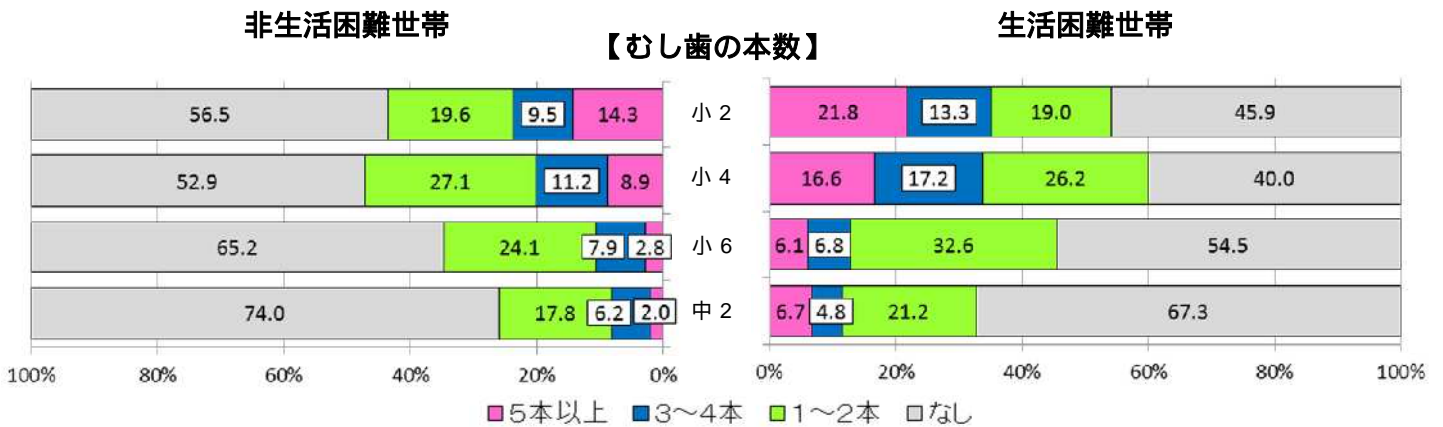
- 世帯年収300万円未満の世帯
- 生活必需品の非所有世帯(子どもの生活において必要と思われる物品や急な出費に備えた5万円以上の貯金がないなど)
- 水道・ガスなどのライフライン等の支払い困難経験世帯



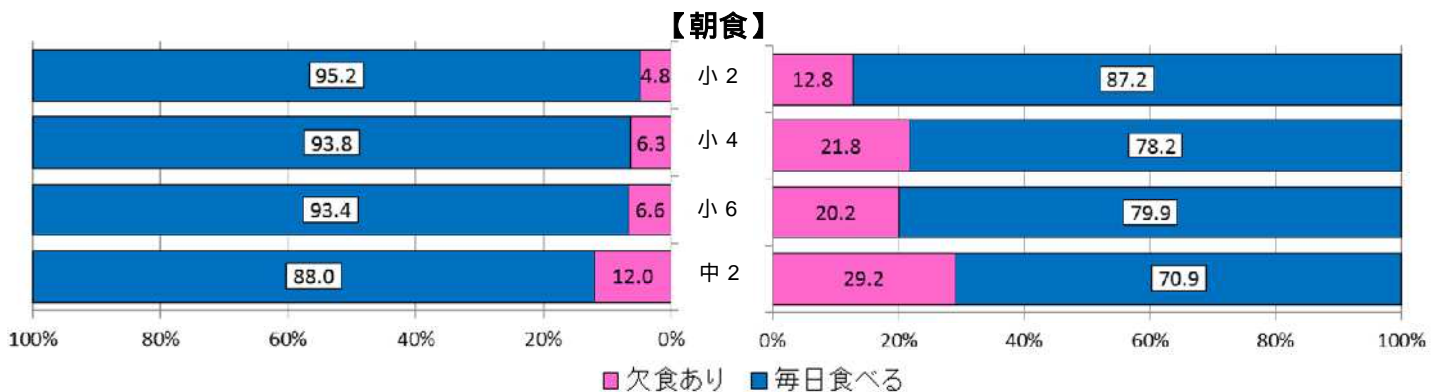
今回の調査の結果、「生活困難」世帯の条件に該当した数は、1,499世帯(24.9%)です。
内訳は、小2 1,040世帯(23.9%)、小4 147世帯(27.5%)、小6 135世帯(25.5%)、中2 177世帯(30.1%)です。

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

子どもたちの健康・生活に生活困難がどの程度関連しているかを調べるために、健康・生活に関する項目について、非生活困難世帯と生活困難世帯を比較しました。



非生活困難世帯に対する生活困難世帯でむし歯が5本以上ある子どもの割合の比は、小4・小6で約2倍、中2で約3倍にもなることが明らかになりました。

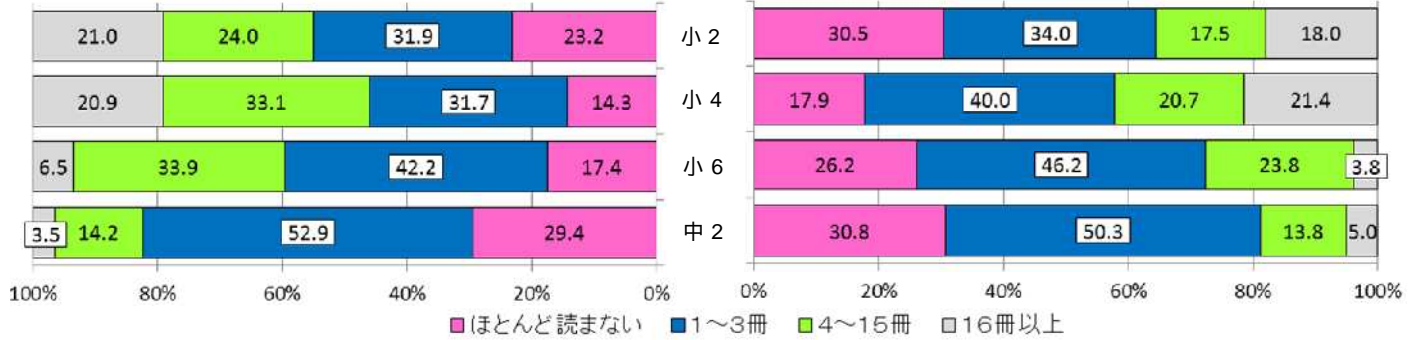


非生活困難世帯では、朝食欠食がある子どもの割合は学年が上がっても10%程度にとどまるものの、生活困難世帯では20~30%の子どもが朝食を毎日食べていないことがわかりました。

非生活困難世帯

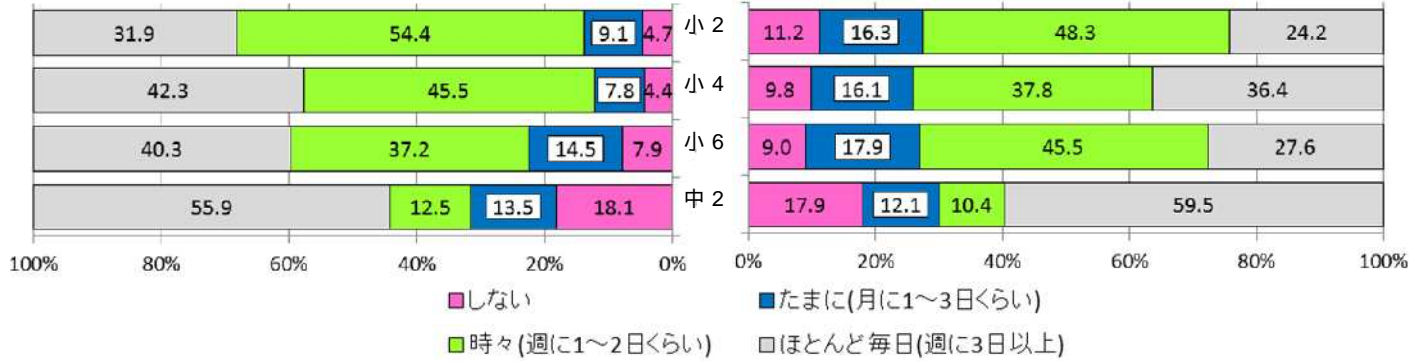
【1か月の読書数】

生活困難世帯



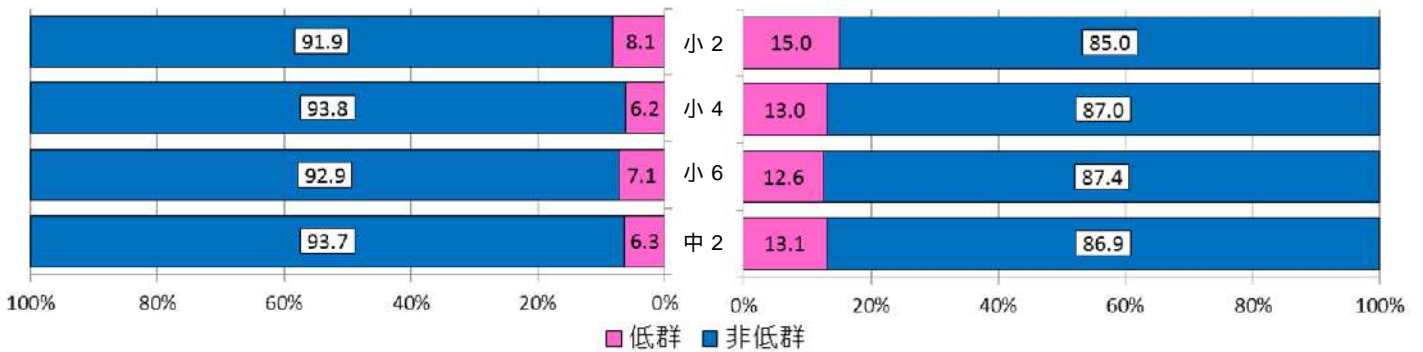
1か月の読書数が3冊以下の子どもの割合は、小学生において生活困難世帯の方が約5~10ポイント高い状況でした。

【運動習慣】



生活困難世帯の小学生は、全体として運動する習慣が少ない傾向が見えてきました。

【逆境を乗り越える力(自己肯定感・自己制御能力など)】

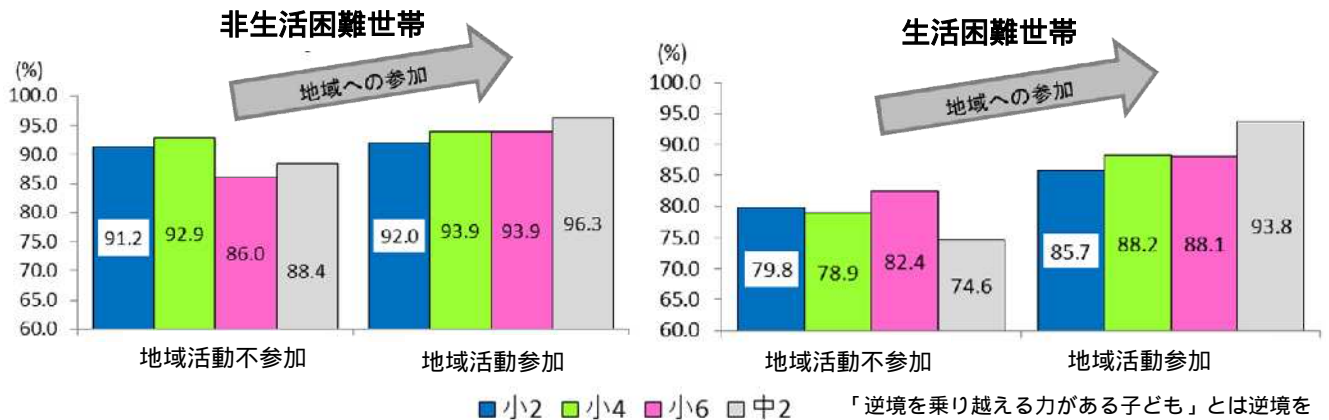


非生活困難世帯と生活困難世帯を比較すると、両者の割合は学年が変わっても約2倍のままでした。

子どもが地域活動に参加することが大切です

全学年を通じて、子どもが地域活動(近所のお祭り・子ども会・児童館等の教室など)に参加している場合、逆境を乗り越える力がある子ども の割合が高くなることが明らかとなりました。

【逆境を乗り越える力(自己肯定感・自己制御能力など)がある子ども の割合】



「逆境を乗り越える力がある子ども」とは逆境を乗り越える力の点数が上位90%の子どもをさします。

本調査の結果から見えてきた傾向

この報告書（概要版）は、子どもの健康や生活の実態と生活困難の関係性を分析したもので、前回と今回の調査から見えてきた傾向は以下のとおりです。

【前回調査結果より】
困ったときに保護者に相談できる相手がいることで、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性があります。

【今回調査結果より】
子どもが地域活動（近所のお祭り・子ども会・児童館等の教室など）に積極的に参加することで、生活困難な状況でも逆境を乗り越える力を培える可能性があります。
同様に、「登校しぶり」「朝食欠食」「5本以上のむし歯」などへの影響も緩和される傾向にあり、高学年では「幸福度」も高くなります。

【前回調査結果より】
子どもが運動・読書習慣を身につけることで、健康に良い影響を与え、子どもの健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性があります。

【今回調査結果より】
今回の調査から、朝食摂取・テレビや動画の視聴時間などの生活習慣は、年齢が上がるとともに乱れる傾向が確認できました。そのため、就学前から中学生まで、良い生活習慣が身につけられるよう、保護者や地域が一体となった支援が必要です。

「未来へつなぐあだちプロジェクト」に調査結果を反映していきます

本調査から得られた結果を区の各所管で共有し、子どもに良い生活習慣が身につくよう支援するとともに、保護者支援や、子どもが地域につながり経験や体験を積む機会を増やす施策等を充実させてまいります。

窓口のご案内 子どものことや心身のこと等でお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

こども・子育てについて悩みがあるとき

<こども支援センターげんき>
03-3852-3535

パートナーからの暴力や嫌がらせの悩み

<男女参画プラザ>
女性相談(予約制) 03-3880-5223

なんとなく心や体が不調なとき

江北保健センター 03-3896-4004
千住保健センター 03-3888-4278

竹の塚保健センター 03-3855-5082

中央本町地域・保健総合支援課
03-3880-5352

東部保健センター 03-3606-4171

東京都立精神保健福祉センター 03-3834-4102

生活や仕事に悩みがあるとき

<くらしと仕事の相談センター>
03-3880-5705

どんな相談でも

<よりそいホットライン>
0120-279-338

詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。



平成 28 年度報告書本編は、平成 29 年 4 月下旬以降に掲載予定

発行：足立区・足立区教育委員会（平成 29 年 3 月）

編集：足立区衛生部こころとからだの健康づくり課

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部

国立大学法人 東京医科歯科大学 大学院医学総合研究科 国際健康推進医学分野

問合：03-3880-5433（足立区衛生部こころとからだの健康づくり課）

<印刷登録番号 29-2188>